

# 青森県経済統計報告

平成 26 年 4 月 30 日  
企画政策部統計分析課

## 1 青森県の推計人口（平成 26 年 4 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,325,767 人（対前月 5,857 人減少）
自然動態	730 人減少（出生者数 745 人、死亡者数 1,475 人）
社会動態	5,127 人減少（転入者数 3,923 人、転出者数 9,050 人）

## 2 本県の経済動向（平成 26 年 2 月・3 月の経済指標を中心として）

### （1）経済概況

本県経済は、生産面に一部持ち直しの動きがみられる。消費面では消費税率引き上げに伴う駆け込み需要がみられ、その反動が懸念されるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。

### （2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成 26 年 2 月の青森県鉱工業生産指数(平成 22 年=100)は、季節調整済指数が 108.0 で、前月比 6.7%の低下となり、5 カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 97.5 で、前年同月比 0.9%の上昇となり、5 カ月連続で前年同月を上回った。 … 2
- (2-2) 雇用情勢 ・平成 26 年 2 月の定期給与は 216,456 円で前年同月比 0.6%減となった。総実労働時間は 152.2 時間で前年同月比 1.8%増、所定外労働時間は 9.4 時間で前年同月比 5.6%増となった。  
・平成 26 年 2 月の有効求人倍率(季節調整値)は 0.77 倍で、前月を 0.01 ポイント下回った。 … 3
- (2-3) 物 価 平成 26 年 3 月の青森市消費者物価指数(平成 22 年=100)は、総合指数が 101.1 となり、前月比 0.1%の下落、前年同月比 2.1%の上昇となった。 … 4
- (2-4) 個人消費 ・平成 26 年 2 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 130 億 9,100 万円円で前年同月比 0.1%増となり、1 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは 0.8%減となり、8 カ月連続で前年同月を下回った。  
・平成 26 年 3 月の観光入込客数は、主な観光施設が前年同月比 10.3%減となり、3 カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は 1.9%増となり、1 カ月ぶりに前年同月を上回った。  
・平成 26 年 3 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 7,625 台で、前年同月比 11.9%増となり、7 カ月連続で前年同月を上回った。 … 5
- (2-5) 住宅建設 平成 26 年 2 月の新設住宅着工戸数は 227 戸で、前年同月比 56.6%増となり、12 カ月連続で前年同月を上回った。 … 6
- (2-6) 電 力 平成 26 年 2 月の大口電力使用量は 2 億 1635 万 kWh で、前年同月比 4.8%増となり、5 カ月連続で前年同月を上回った。 … 6

### （3）景気動向指数 C I（平成 26 年 2 月分）…………… 7

先行指数	107.3（前月を 4.1ポイント下回り、3 カ月連続で下降した）
一致指数	121.5（前月を 4.8ポイント下回り、2 カ月ぶりに下降した）
遅行指数	105.2（前月を 5.2ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した）

### （4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 26 年 4 月期）…………… 8

- 3 カ月前と比べた景気の現状判断 D I ……46.0(前期比 8.8ポイント増、5 期ぶりに 50 を下回る)
- 3 カ月後の景気の先行き判断 D I ……34.9(前期比 11.8ポイント減、2 期連続で 50 を下回る)

# 1 青森県の推計人口（平成26年4月1日現在）

## 【概況】

平成26年4月1日現在の本県推計人口は、1,325,767人で、前月に比べ5,857人の減少となった。

### ○自然動態

出生者数が745人、死亡者数が1,475人で、730人の減少となった。

### ○社会動態

転入者数が3,923人、転出者数が9,050人で、5,127人の減少となった。

### 総人口の推移

(単位：人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数			社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女			出生者数	死亡者数	自然増減数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
24.10.1	1,349,969	634,196	715,773	-0.041%	-554	-445	736	1,181	-109	1,382	1,491
25.4.1	1,338,972	628,700	710,272	-0.481%	-6,467	-797	704	1,501	-5,670	3,440	9,110
25.5.1	1,339,044	628,822	710,222	0.005%	72	-690	768	1,458	762	4,085	3,323
25.6.1	1,338,181	628,322	709,859	-0.064%	-863	-634	794	1,428	-229	1,330	1,559
25.7.1	1,337,580	628,017	709,563	-0.045%	-601	-546	683	1,229	-55	1,218	1,273
25.8.1	1,337,098	627,880	709,218	-0.036%	-482	-488	813	1,301	6	1,760	1,754
25.9.1	1,336,664	627,695	708,969	-0.032%	-434	-508	781	1,289	74	1,854	1,780
25.10.1	1,336,206	627,579	708,627	-0.034%	-458	-523	750	1,273	65	1,563	1,498
25.11.1	1,335,656	627,359	708,297	-0.041%	-550	-526	889	1,415	-24	1,527	1,551
25.12.1	1,334,803	626,931	707,872	-0.064%	-853	-713	732	1,445	-140	1,066	1,206
26.1.1	1,333,729	626,454	707,275	-0.080%	-1,074	-756	738	1,494	-318	919	1,237
26.2.1	1,332,587	625,865	706,722	-0.086%	-1,142	-1,010	774	1,784	-132	1,042	1,174
26.3.1	1,331,624	625,397	706,227	-0.072%	-963	-699	657	1,356	-264	1,028	1,292
26.4.1	1,325,767	622,271	703,496	-0.440%	-5,857	-730	745	1,475	-5,127	3,923	9,050

### 3月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		16.3	17.3	18.3	19.3	20.3	21.3	22.3	23.3	24.3	25.3	26.3
自然動態	出生者数	1,036	854	925	831	844	814	847	797	742	704	745
	死亡者数	1,279	1,522	1,318	1,296	1,327	1,327	1,447	1,579	1,498	1,501	1,475
	自然増減数	-243	-668	-393	-465	-483	-513	-600	-782	-756	-797	-730
社会動態	県外からの転入者数	4,532	4,133	4,191	3,722	4,045	4,158	4,069	2,887	3,822	3,440	3,923
	県外への転出者数	9,993	10,234	9,790	9,987	9,894	9,211	8,558	5,920	8,691	9,110	9,050
	社会増減数	-5,461	-6,101	-5,599	-6,265	-5,849	-5,053	-4,489	-3,033	-4,869	-5,670	-5,127
増減数計		-5,704	-6,769	-5,992	-6,730	-6,332	-5,566	-5,089	-3,815	-5,625	-6,467	-5,857

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成22年11月以降の人口は平成22年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

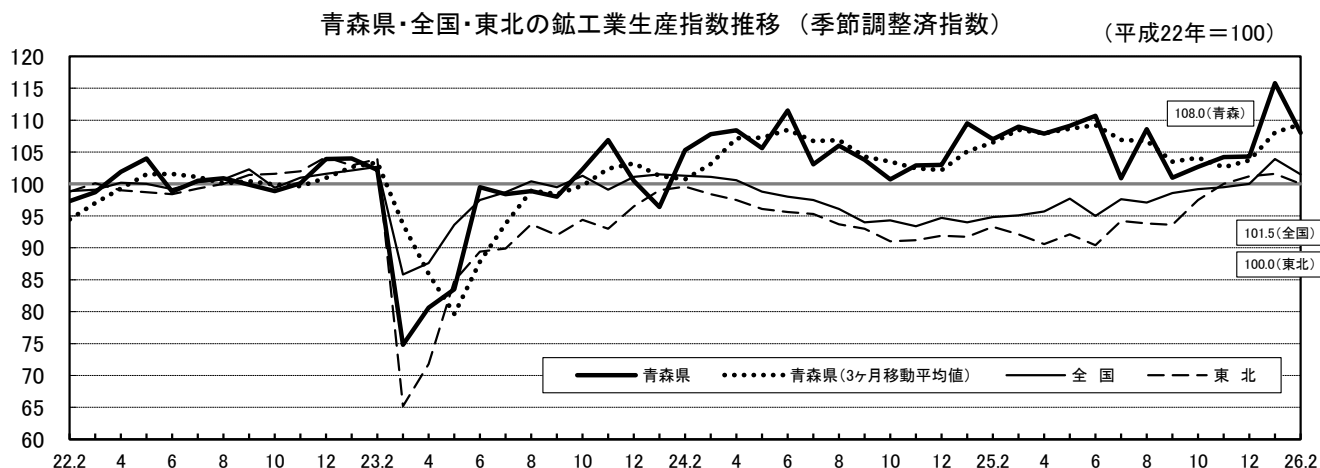
## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

#### (2-1) 製造業の生産

平成26年2月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が108.0で、前月比6.7%の低下となり、5カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は97.5で、前年同月比0.9%の上昇となり、5カ月連続で前年同月を上回った。

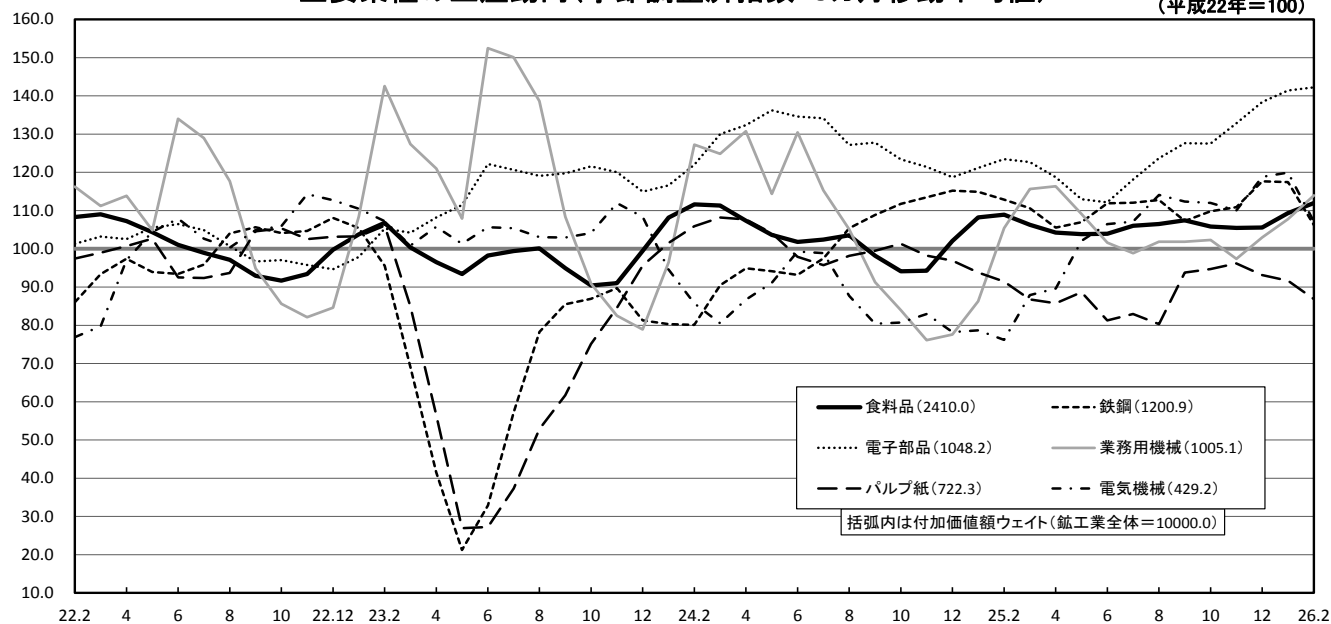
季節調整済指数で前月からの動きをみると、石油・石炭製品工業、電子部品・デバイス工業、はん用機械工業などが上昇に寄与した一方、鉄鋼業、生産用機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業などが低下し、鉱工業全体では6.7%の低下となった。



#### ◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -6.7%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
石油・石炭製品工業	190.6	12.7	鉄鋼業	-21.4	-40.4
電子部品・デバイス工業	2.7	5.7	生産用機械工業	-34.6	-25.1
はん用機械工業	98.6	4.1	パルプ・紙・紙加工品工業	-16.5	-16.0
非鉄金属工業	6.3	3.1	金属製品工業	-18.4	-13.8
プラスチック製品工業	14.4	1.8	電気機械工業	-14.4	-9.1

#### 主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)



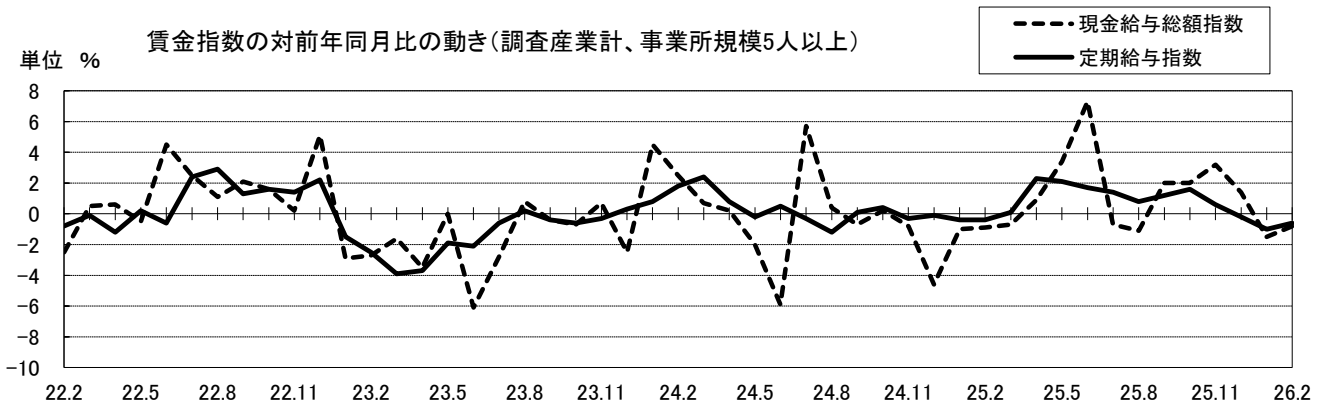
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

## (2-2) 雇用情勢

平成26年2月の定期給与は216,456円で定期給与指数(平成22年=100)では98.3となり、前年同月比0.6%減(現金給与総額216,913円、現金給与総額指数84.1、前年同月比0.8%減)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は83.6となった。

総実労働時間は152.2時間で、総実労働時間指数は98.4となり、前年同月比1.8%増となった。このうち、所定外労働時間は9.4時間で、所定外労働時間指数は103.3となり、前年同月比5.6%増となった。

平成26年2月の有効求人倍率(季節調整値)は0.77倍で、前月を0.01ポイント下回った。



賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実 数		指数(H22=100)		対前年同月増減率	
	県	全 国	県	全 国	県	全 国
現金給与総額	216,913 円	262,020 円	84.1	82.7	-0.8 %	-0.1 %
定期給与	216,456 円	259,067 円	98.3	98.6	-0.6 %	-0.1 %
特別給与	457 円	2,953 円	—	—	—	4.5 %
総実労働時間	152.2 時間	142.6 時間	98.4	97.3	1.8 %	-0.2 %
所定内労働時間	142.8 時間	131.7 時間	98.1	96.6	1.6 %	-0.6 %
所定外労働時間	9.4 時間	10.9 時間	103.3	106.9	5.6 %	5.8 %

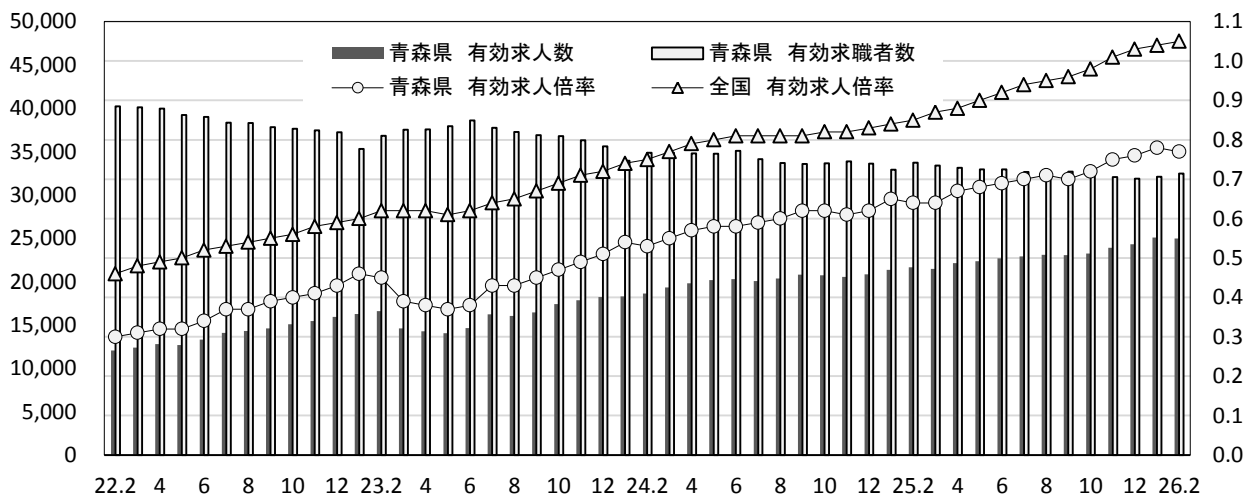
(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

(人) 有効求人倍率・求人数・求職者数(季節調整値) (倍)



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

## (2-3) 物価

平成26年3月の青森市消費者物価指数(平成22年=100)は、総合指数が101.1となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ2.1%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は100.8となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ1.6%の上昇となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は98.0となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ0.8%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.1%の下落となった内訳を寄与度でみると、食料、住居、光熱・水道、教養娯楽などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ2.1%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、光熱・水道などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

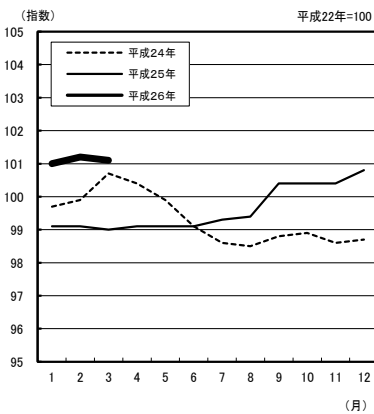


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

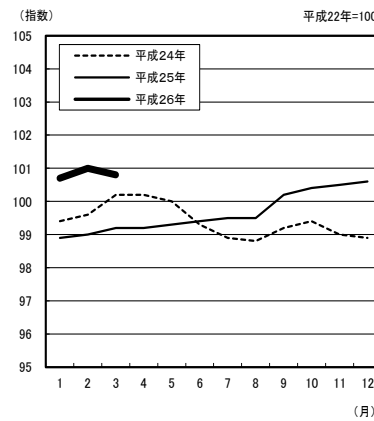
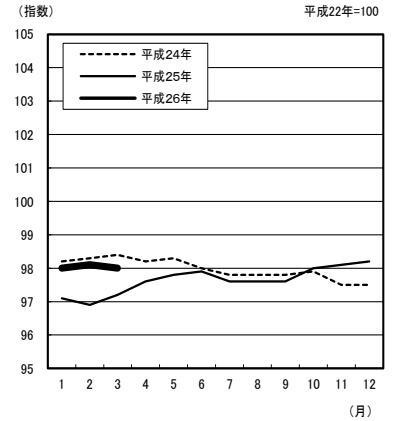


図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き



### 10大費目指数の動き

(平成22年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	101.1	100.8	101.7	98.0	100.0	107.0	98.2	118.2	90.1	103.0	97.0	104.0	96.8	92.2	106.3
前月比(%)	▲0.1	▲0.1	▲0.1	▲0.1	▲0.2	0.7	▲0.2	▲0.3	0.3	0.7	▲0.4	0.1	0.0	▲0.3	▲0.1
寄与度	—	▲0.14	▲0.08	▲0.03	▲0.04	0.03	▲0.03	▲0.03	0.01	0.03	▲0.02	0.01	0.00	▲0.03	▲0.01
前年同月比(%)	2.1	1.6	2.5	0.8	3.1	12.6	0.1	6.3	0.4	3.7	▲1.1	1.1	0.1	2.0	1.8
寄与度	—	1.55	2.15	0.54	0.80	0.53	0.03	0.69	0.01	0.13	▲0.05	0.15	0.00	0.19	0.12

資料：県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

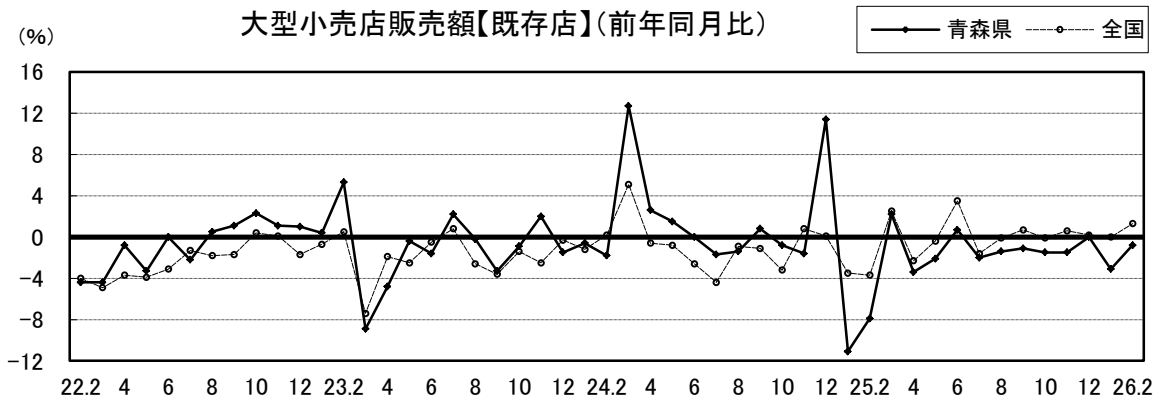
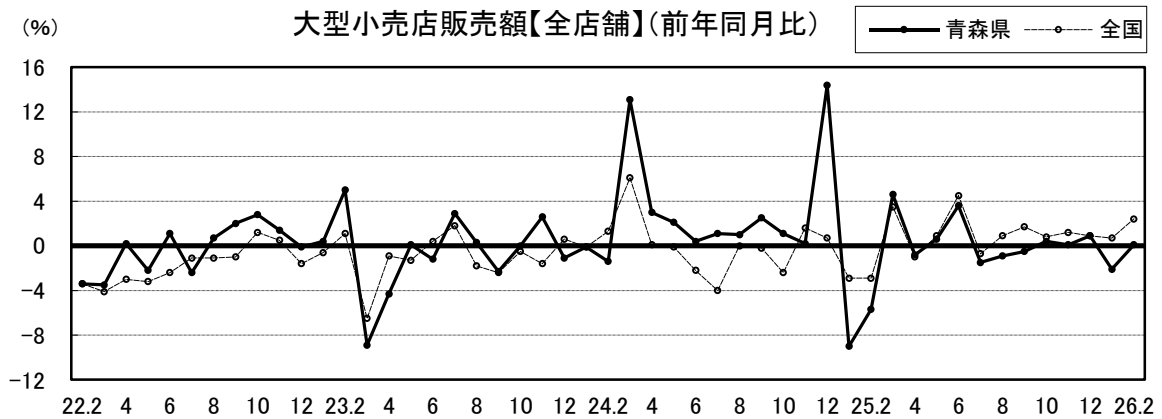
本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

## (2-4) 個人消費

平成26年2月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが130億9,100万円で前年同月比0.1%増となり、1カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは0.8%減となり、8カ月連続で前年同月を下回った。

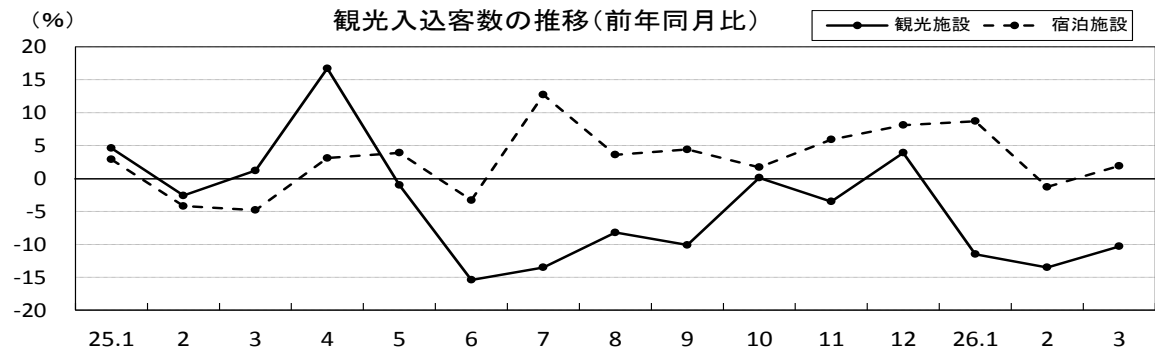
平成26年3月の観光入込客数は、主な観光施設が前年同月比10.3%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は1.9%増となり、1カ月ぶりに前年同月を上回った。観光施設は青森市、八戸市などの施設で減少し、宿泊施設は八戸市、弘前市で増加したことによる。

平成26年3月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は7,625台で、前年同月比11.9%増となり、7カ月連続で前年同月を上回った。普通車、小型車、軽自動車がいずれも増加したことによる。

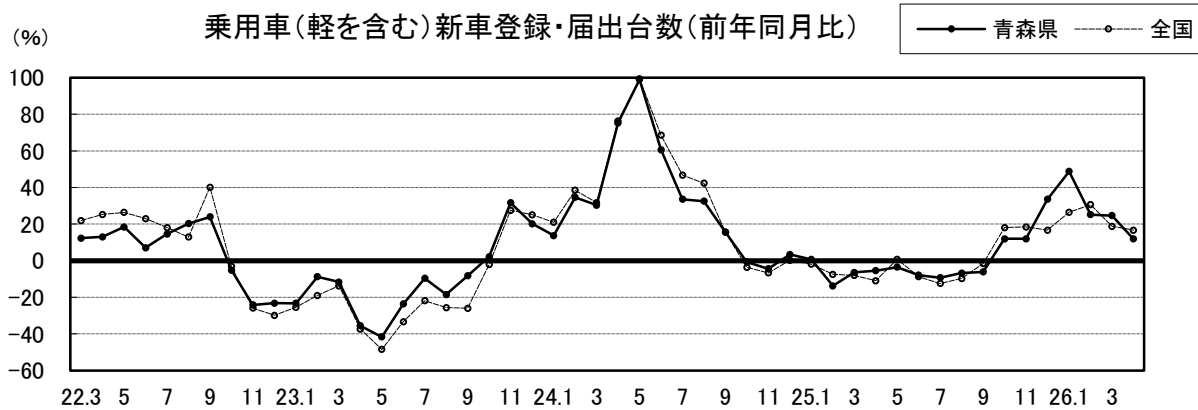


資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

- \* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



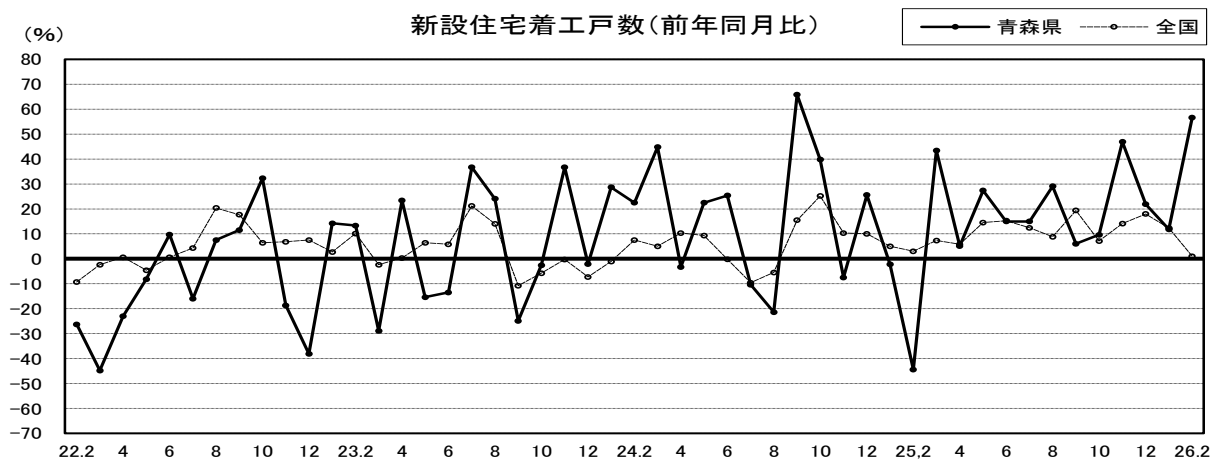
資料：県観光企画課「月例観光統計」※観光施設35施設（H23年は34施設・H24～25年は36施設対比）、宿泊施設60施設（H23年は56施設・H24年1～3月及びH25年12月は57施設・H24年10～11月及びH25年4～11月は61施設・H24年12月～H25年3月は58施設対比）



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

### (2-5) 住宅建設

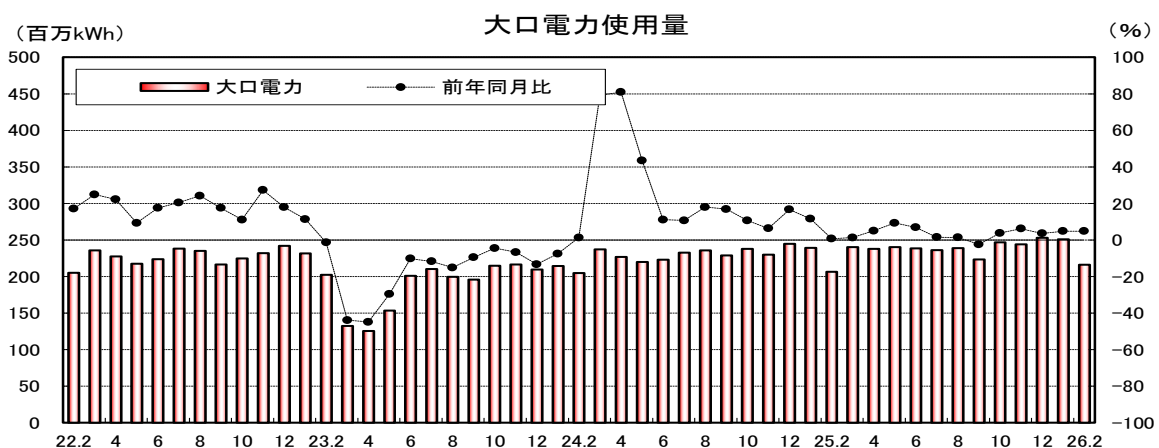
平成26年2月の新設住宅着工戸数は227戸で、前年同月比56.6%増となり12カ月連続で前年同月を上回った。持家、貸家等が増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

### (2-6) 電力使用量

平成26年2月の大口電力使用量は2億1635万kWhで、前年同月比4.8%増となり、5カ月連続で前年同月を上回った。製造業が増加したことによる。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

### (3) 青森県景気動向指数

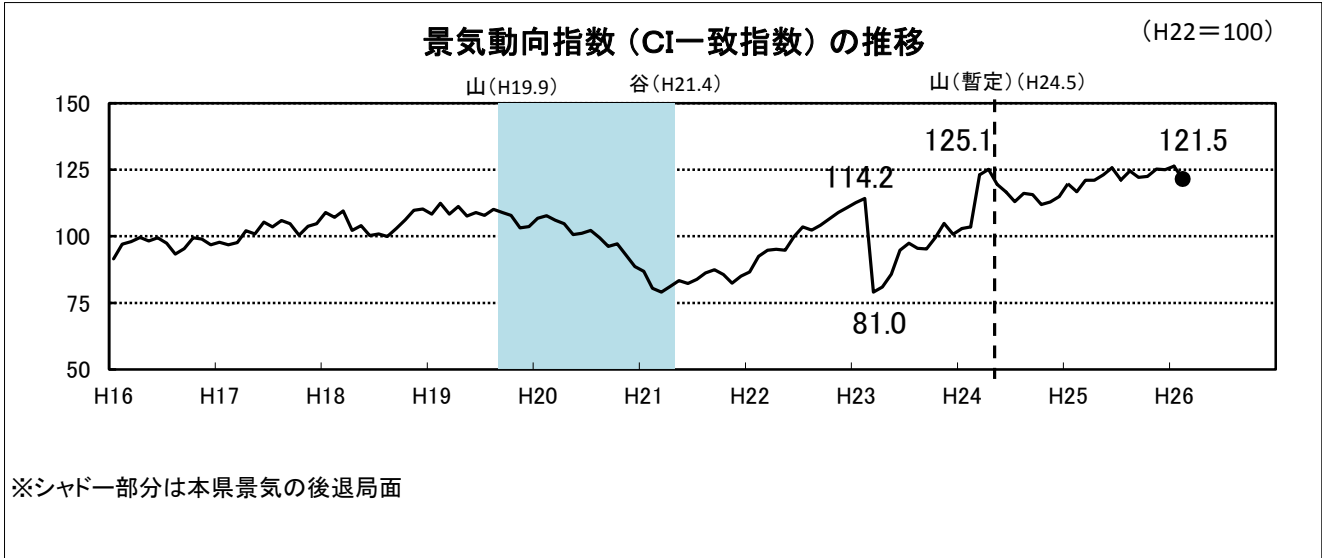
平成26年2月の青森県景気動向指数(CI)は、先行指数 107.3、一致指数 121.5、遅行指数 105.2 となった。

先行指数は、前月を 4.1 ポイント下回り、3カ月連続で下降した。

一致指数は、前月を 4.8 ポイント下回り、2カ月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を 5.2 ポイント上回り、2カ月ぶりに上昇した。

2月の一致指数は、生産・雇用関連等の指標がマイナスになったことから、下降した。



#### ●個別系列の動き (各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています)

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
<b>先行系列</b>					
所定外労働時間指数 (全産業)	1.88	2カ月連続	企業倒産件数	-2.81	2カ月ぶり
中小企業景況DI	1.39	3カ月ぶり	新規求人倍率 (全数)	-2.58	3カ月ぶり
新設住宅着工床面積	0.69	3カ月ぶり	生産財生産指数	-1.66	2カ月連続
			建築着工床面積	-0.91	2カ月連続
			乗用車新車登録届出台数	-0.30	2カ月連続
<b>一致系列</b>					
大型小売店販売額 (既存店)	0.89	2カ月ぶり	鉱工業生産指数	-2.42	5カ月ぶり
東北自動車道IC利用台数	0.56	3カ月ぶり	大口電力使用量	-1.92	2カ月ぶり
			有効求人倍率 (全数)	-1.29	5カ月ぶり
			旅行取扱高	-0.38	2カ月連続
			輸入通関実績 (八戸港)	-0.29	5カ月連続
<b>遅行系列</b>					
家計消費支出 (勤労者世帯:実質)	2.37	3カ月ぶり			
公共工事請負金額	1.45	2カ月ぶり			
りんご消費地市場価格	0.39	2カ月ぶり			
青森市消費者物価指数 (総合)	0.31	2カ月ぶり			
常用雇用指数 (全産業)	0.30	2カ月ぶり			
現金給与総額 (全産業)	0.12	3カ月ぶり			
県内金融機関貸出残高	0.07	4カ月連続			

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数 (DI)		
先行指数	62.5%	(2カ月ぶりに50%を上回った)
一致指数	57.1%	(2カ月ぶりに50%を上回った)
遅行指数	71.4%	(2カ月ぶりに50%を上回った)



## (4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成26年4月期)

現状判断DIは、消費税増税による影響等により、前期から8.8ポイント減少の46.0となった。  
 先行き判断DIは、消費税増税や物価上昇による影響が懸念されることから、前期から11.8ポイント減少の34.9となった。

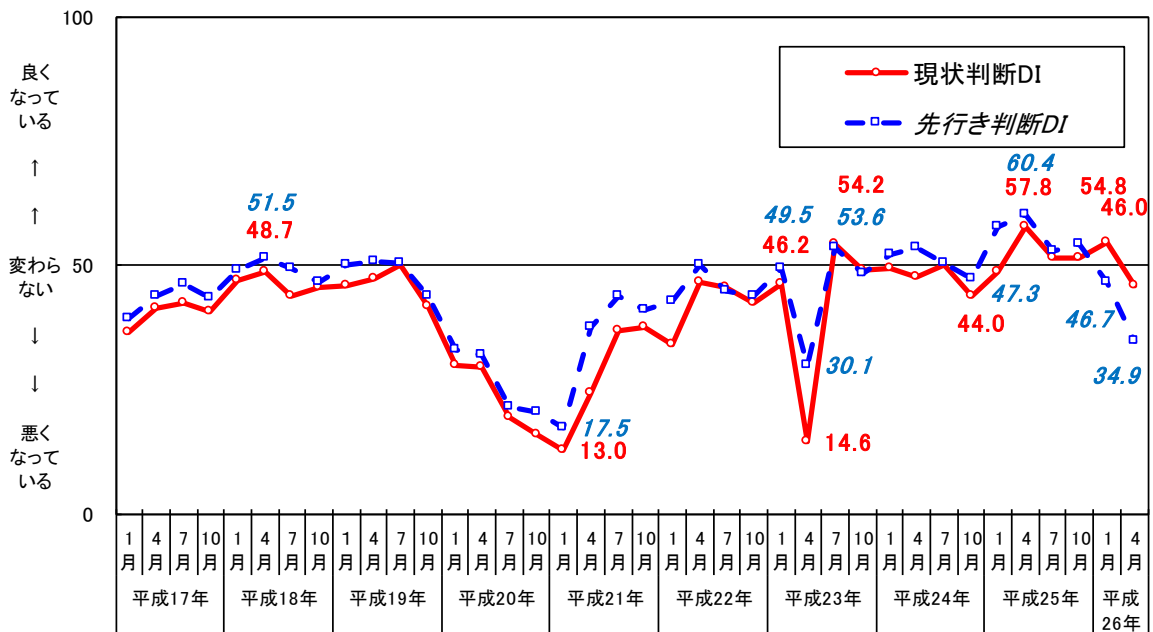
3カ月前と比べた景気現状判断DIは、前期調査と比べて8.8ポイント減少の46.0となり、景気の横ばいを示す50を5期ぶりに下回った。

3カ月後の景気先行き判断DIは、前期調査と比べて11.8ポイント減少の34.9となり、景気の横ばいを示す50を2期連続で下回った。

先行き判断DIの下げ幅は、過去最大であった東日本大震災直後の平成23年4月期に次ぐ大きさとなった。

(調査期間 平成26年4月1日～4月11日 回答率 99%)

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



### ● 3カ月前と比べた景気現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント増加、「やや良くなっている」が13.1ポイント減少、「変わらない」が10.1ポイント減少、「やや悪くなっている」が20.2ポイント増加、「悪くなっている」が2.1ポイント増加したことにより、全体では8.8ポイント減少の46.0となり、景気の横ばいを示す50を5期ぶりに下回った。</p> <p>判断理由では、プラス面、マイナス面ともに消費税増税による影響をあげる声が大半を占めた。プラス面では小売業を中心に駆け込み需要による売上の増加、マイナス面ではその反動による売上の減少、消費者の買い控えによる来客数や客単価の減少をあげる声があった。</p>
向	<p>地区別では、前期調査と比べて、下北地区以外の全地区でポイントが減少し、東青地区は3期ぶりに、津軽、県南地区では6期ぶりに、下北地区では2期連続で景気の横ばいを示す50を下回った。</p>

### ● 3カ月後の景気先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「良くなる」が1.0ポイント減少、「やや良くなる」が13.0ポイント減少、「変わらない」が8.9ポイント減少、「やや悪くなる」が13.6ポイント増加、「悪くなる」が9.2ポイント増加したことにより、全体では11.8ポイント減少の34.9と、景気の横ばいを示す50を2期連続で下回った。</p> <p>判断理由では、消費税増税による駆け込み需要の反動減や、賃金上昇のない中で消費税増税や物価上昇による影響を懸念する声が多くあった一方で、桜祭りなど観光シーズンに向けて消費の増加や、増税に対応した販売施策に期待する声もあった。</p>
向	<p>地区別では、前期調査と比べて、全地区でポイントが減少し、津軽地区では3期連続で、その他の地区では2期連続で景気の横ばいを示す50を下回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

### ● 3カ月前と比べた景気の現状判断理由

- ◎ 消費税の駆け込み需要であるが、2月からみられ、3月は昨年4月分をまるまるプラスされたような売上げであった為。(一般小売店=津軽)
- ◎ 宿泊予約が好調。(観光型ホテル・旅館=県南)
- 増税前の需要で消耗品、冷凍食品等、生活に必要な商品が売上げを伸ばした他、酒、タバコ等の嗜好品やブランド品にも需要が生じ、消費動向の変化に景気回復を感じた為。(家電量販店=東青)
- 3月までは駆け込み需要もあり売上も良かったが、4月に入ってから前年より落ち込んでいる。(乗用車販売=津軽)
- 消費税増税を控え、広い範囲にわたって駆け込み需要が見られた。(経営コンサルタント=東青)
- 駆け込み需要等で売上を伸ばしている企業、その為の人員確保に意欲的な企業が多く見受けられた。(人材派遣=東青)
- 飲食業は特に大変です。昨年末12月～3月までに30店舗閉店したとの事。残念ですね。挙げ句の果てに増税で仕入れコストが増えますし悩みます。(スナック=東青)
- 客数、売上等、特に変化がない様です。(パチンコ=津軽)
- 3月の末は消費税増税前の駆け込み需要は一時的にありましたが、大きいスパンで見ると微々たるものでした。(ガソリンスタンド=下北)
- 工場の設備投資に使われる製品を作っているが、安定して高水準の受注がある。人手もそこそこ集まっている。(電気機械製造=県南)
- △ 3月単月で見れば増税前の駆け込み需要でスーツなどの重衣料品の動きはよく二桁増であるが、1月2月は昨年割れしている、政府の経済政策の実感感は一一般には薄いようで先行きが不安です。(衣料専門店=東青)
- △ 消費税増税の影響が4月初めはかなり大きく出ている。ただし、食品や書籍などはあまり大きな変化がなく、一番影響を受けているのは衣料品。(百貨店=津軽)
- △ 4月以降駆け込み需要の反動が住宅業界においては始まっている。(住宅建設販売=津軽)
- △ 消費税の増税により、駆け込みの反動ありです。客数減、客単価減です。(一般小売店=下北)
- × 消費税増税による対応として、事前のまとめ買いについては、部分的にあった(賞味期限の長い商品のケース買い、大容量の一般調味料や化粧品、返礼ギフト品等)が、全体の売上アップにはならなかった。そして、4月に入ってからのお客様の来店状況は、予想通り買い控えが見られ客数減。景気が持ち直すが懸念。(百貨店=県南)

### ● 3カ月後の景気の先行き判断理由

- ◎ 3月はグンと落ち込んだのであとは上るだけでしょう。(一般飲食店=東青)
- 消費税アップも徐々に落ち着いて来て、各社が色々な施策を打っていく為。(乗用車販売=東青)
- さくら祭りや様々なイベントが予定されている為、集客が見込める。(商店街=津軽)
- 消費税8%で、売る側が企業努力を見せているので、セールなどが行われている。(美容院=津軽)
- 少しは良くなって欲しいと期待はしているが、増税後の乗り減りが予想されるが、増税の影響がまだ不透明である。(タクシー=津軽)
- 夏場に向けて景気が上向く事を期待したいが、来年に向けての再増税が控えている事や高齢者への負担増(年金減、医療費増等)などを考えると買い控えは続くのではと考えられる。(百貨店=県南)
- △ 良くなる要因が見当たりません。何にかも値上がりしているようで、仕方がないことですが。一番衣料が影響を受けると思います。賃金が上がり、お金が循環することを願うばかりです。(衣料専門店=県南)
- △ 消費税増税を始め、様々なものが上がり、しかし収入は変わらないどころか、手取りの減る中で良くなる要素が全くない。(パチンコ=県南)
- △ 消費税が3%上昇したことにより落ち込むと思われます。現に4月に入ってから売上げが落ちています。(ガソリンスタンド=下北)
- △ 物価が上がっているのに収入は増えない。製造現場でも原料、重油等が高騰している。(食料品製造=津軽)
- △ 消費税増税がポイント。燃料高が響いてくると思う。10%を見越し、さらなる低調な空気感あり。(新聞求人広告=東青)
- × 所得環境が改善されない中、電気料金、消費税率の引き上げ等が家計を圧迫し、節約志向が高まる事が予想される為。(家電量販店=東青)
- × 消費税の増税により受注件数が激減しており、この先、3～6ヶ月間位は悪い状況が続くと思われる。(広告・デザイン=津軽)

記号の意味: ◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」